

開会あいさつ

埼玉県保健医療部薬務課 課長 岡地 哲也

皆様、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました埼玉県保健医療部薬務課長の岡地でございます。

本日は、「第 15 回埼玉輸血フォーラム」が開催できましたこと、御参会の皆様、それから開催に際しまして御尽力を賜りました関係者の皆様に、主催者として感謝申し上げます。

日頃から医療従事者の方には、本県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

既に、献血の現状と供給体制や血液製剤の製造について、日本赤十字社から説明がありましたが、本日は、この後も委員会の活動報告をはじめとして、毎年御好評をいただいておりますパネルディスカッション、教育講演が予定されております。

特に教育講演では、PBM（Patient Blood Management）の基本と題しまして、日本赤十字社血液事業本部長の紀野様から御講演を頂戴します。

輸血の安全性は高まっているとはいえ、引き続き輸血関連の重篤な合併症の問題は残っており、

これが患者さんの予後にも影響を与えることがよく知られています。

昨今多く取り入れられている PBM について、紀野様からお話をいただき、県内の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しております。

一方、県では、患者さんが必要な時に必要な医療を安心して受けられるよう必要な献血量を確保する取組を続けています。

皆様の職場に献血バスがお邪魔することがあるかもしれませんが、出かけた先の近くに献血ルームがあったということがあるかもしれません。

献血ルームや献血バスでは、献血に御協力いただいた方を対象としたさまざまなキャンペーンを実施しています。

ぜひ、必要な献血量の確保の取組にも引き続き御協力をお願いいたします。

結びに、埼玉県合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様の御健勝を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。